

# 大曲農高 生徒が栽培— 新鮮な野菜に列

大曲農業高校（大仙市）の生徒による本年度の農産物販売が22日、同校で始まった。9月16日まで週1回、校舎敷地に

ある直売施設「アグリマーケティングハウス」で、自ら栽培した新鮮な品々や加工品を売り出す。次回は今月29日。

## 週1回、敷地内で販売

初日は午後0時半のオープンを前に、買い物客が店の前を列を作った。開店すると、食品の製造や流通について学



ぶ食品科学科の生徒ら10人が「いらっしやいませ」と出迎えた。オープンから30分ほどで、棚に並べた野菜などが次々と完売した。

農産物は、生徒が授業や部活動の一環で栽培、収穫したもので、時期によって品々も異なる。この日はプロッコリーやナス、花卉などのほか、ジャムやぶどうジュースといった加工品も売った。

販売に参加した1年の高橋愛海さん（16）は「お客さんが思ったより来てくれた。気持ちを入れて作った農作物が売れて、とてもうれしい。販売は初めてだったので良い経験になった」と話した。

アグリマーケティングハウスは2018年にオープン。生徒は総合実習の授業の一環として、毎年7〜9月に販売を体験している。

今後の販売予定は、夏休み自らが手がけた農産物を販売する大曲農業高の生徒たち



期間中の7月20日、8月5日、10、19日が午後0時半〜1時、授業再開後の8月26日、9月2、9、16日は午後4時〜4時半。変更があれば大曲農業高のホームページに掲載する。（佐藤将弥）